



# うしおのよい子



尼崎市立 潮 小学校

## —新春企画—

### —国語(6年)の学習活動より—

6年生は、国語科の学習で意見文を書きました。自分の主張したいこと、その裏付けとなる資料、反論とそれに対する答えをしっかりと入れて書きました。そして、その中から、みんなの投票で学年及びクラスでナンバー1の意見文を選びました。

#### 「政治を見つめよう」



6年1組 田仲結子

選挙権のある人も、ない人も、政治に関心を持つことが大切だ。もちろん、私たちの年齢では選挙の投票や立候補はできない。でも、私は将来のために、政治に関心を持った方が良いと考える。

先日、テレビで選挙年齢が十八歳以上に引き下げられた事を知った。今まで投票できなかった十九歳、十八歳の人も投票できるようになったのだ。それは、今まで以上に若い人たちの意見が政治に反映されるということになるのだろう。とても興味を持った。

そこで、十八歳の人たちはどう思っているのか、インターネットで調べてみた。すると、様々な事が分かった。十八歳の人々の多くは、自分の支持する政党がなく、自分が投票する一票の「重み」が感じられないようだ。これは、小さい頃から多くの人の投票で物事が決まる様子を見たり、色々な政党について考えてこなかったからではないだろうか。

今から政治に関心を持たなくても良いのではないかと、という意見もあるだろう。だが、小さい頃から誰かの一票が集まって物事が決まる様子を見れば、一票の重みを感じられるかもしれない。それに、人は成長するにつれて他人に同調しがちだ。しっかり自分の意見を持っておいた方が良いと思う。

今、私にできる事は、自分で政策や法案について賛成か反対か考えたり、今行われている政治に関心を持つ事だ。将来のためにも、私たちが政治を見つめる事が、より良い未来への第一歩だと考える。

#### 「よりよい未来へつながること」

6年2組 岡田真歩



交通事故がなくなることが私にとって、よりよい未来に欠かせないことだと思います。そのために、身近な人に自動ブレーキのついた車や反射材用品の大切さを伝えることが、よりよい未来への第一歩だと考えました。

交通事故を減らすために、自分には何が出来るかを考えるためコンピューターで調べてみると、交通事故での死亡事故件数、死者数ともに昨年から増えていることがわかりました。しかし、自動ブレーキのついている車の一万台あたりの事故率で見ると追突事故では84%も減少していることがわかりました。さらに、交

通事故の4割が歩行者の死亡で、そのうちの7割が夜間に発生しているということがわかりました。そして、反射材用品のおかげで夜間の事故が減ったというデータもありました。そのことから、自動ブレーキのついた車や反射材用品が交通事故がなくなることにつながると考えました。

ただ、自動ブレーキのついた車を買うには高いお金を支払わないといけないため、簡単には自動ブレーキのついた車を持つ人は増えないと考える人もいると思います。でも、最近では車の種類によりますが、二万円から十萬円で自動ブレーキの機能を車につけることができます。中には歩行者には対応していない機能もありますが、自動ブレーキの機能に変わりありません。さらに、歩行者や自転車との事故はすべて車の方が悪いということになり、慰謝料を払わなければいけません。慰謝料は一千万円以上かかるので、それに比べたら自動ブレーキの機能の方が安く感じるのではないかと思います。

私は、交通事故が減ることがよりよい未来へつながると思います。そのために、自動ブレーキのついた車に乗る人や反射材用品を使う人が増えることが第一歩だと思います。私も、それを描いたポスターをつくったり知り合いに教えたりして、多くの人に伝えることがよりよい未来につながると思いました。



### —平成28年度「読書感想文コンクール」より—

尼崎市では、毎年「読書感想文・読書感想画コンクール」が行われています。本校も、毎年多くの作品を出品し、数々の賞をいただいておりますが、今年度は、読書感想文において2年生 南口航大さんの読書感想文が“特選”に選ばれました。

#### 「あなたが生まれるまで」を読んで

2年3組 南口航大

ぼくは、この話を読んで、赤ちゃんがどんな風に大きくなって、生まれてくるのか、ということを知りました。

今、ぼくの母さんのおなかにも赤ちゃんがいます。そのことを聞いたときのことは、わすれられません。家ぞくがふえるし、とてもうれしかったからです。そして、赤ちゃんが男の子か女の子か早く知りたくなりました。

お話の中では、「男の子か、女の子かをえらぶことができません。」と書いてありました。ぼくは、「つぎ生まれてくる子は妹がいいな。」と思っていました。でも、母さんのおなかにいるのは、男の子でした。ぼくは、それを聞いて泣きました。



その時、母さんがこんな話をしてくれました。「神さまが、このおうちに男の子がくるのがピッタリだから男の子をえらんでくれた。」

ぼくは、横にいる弟が「女の子だったら」なんて考えられません。ケンカもするけど、おとぼけでおもしろいところが好きだから、こんな弟がいて、とてもしあわせです。

そして、ぼくは、ぼくで生まれてよかったです。なぜかというと、家ぞくや友だちと会えたし、みんなとあそべるのがとても楽しいからです。今では、弟が生まれるのが楽しみです。だって、弟といっしょに野球もしたいし、キャッチボールもしたいからです。

ぼくが生まれたときのことを、父さんと母さんに聞いてみました。父さんも母さんも、うれしくて、ロボロ泣いたそうです。

このお話でぼくがーばん好きな場めんは、「あなたのおかげで私たちはいっそう、しあわせな家ぞくになりました。」というところです。だってぼくは、もっともっと、しあわせな家ぞくになりたいからです。

そしてもうすぐ、しあわせが、またふえます。ぼくは、赤ちゃんが生まれたとき、こう言ってあげると、きめています。

「はじめまして、生まれてきてくれてありがとう。」

『《あなたが生まれるまで》ジェニファー・デイビス著 小学館』